

谷中輝雄はどのようにソーシャルワーカーの価値を形成したか

ー谷中輝雄理論の生成過程をたどる文献研究ー

早稲田大学 大隅 薫 (009296)

「谷中輝雄」「ソーシャルワーカーの価値」「地域精神衛生活動」

1. 研究の目的

本研究の目的は、谷中輝雄理論の生成過程を解明することにより、谷中輝雄がどのようにソーシャルワーカーの価値を形成したのかを考察することである。谷中輝雄(1939～2012)は、地域精神衛生活動創設期をリードした先駆者の1人である。谷中は、当時施設外収容禁止条項のある精神衛生法時代に精神障害者の地域拠点となる「やどかりの里」を立ち上げた。そして、その実践を通し、谷中は「ごくあたりまえの生活」や「生活のしづらさ」などの概念を発案する。1996年には生活支援論をまとめ、その後の精神保健福祉援助技術理論に影響を与えた。本研究は、この谷中の概念生成から理論構築に至る過程に焦点を当て、谷中が獲得したソーシャルワーカーの価値とその形成過程を明らかにする。

2. 研究の方法

本研究は、文献研究により行う。『生活支援』(1996)が出版された1996年までを区切りとし、谷中が執筆・編集・監修した文献に限定すると、123の文献が選定された。よって本研究の対象は、この123の文献とする。

本研究の分析は、重要概念を抽出し、それらの変遷を3つの時間軸と照合することにより行う。重要概念の抽出にあたっては、「定義や生成過程に独自性があるか」という基準を置いた。その上で、頻出度の高さを考慮して重要概念を選定した。重要概念の変遷と照合する時間軸は、①谷中の関わりをたどる時間軸、②精神保健福祉の状況をたどる時間軸、③社会状況をたどる時間軸の3つに分けた。

3. 倫理的配慮

本研究は、一般社団法人日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守する。また、対象文献には「精神分裂病」や「精神病院」など現在名称が変更されている用語が含まれているが、本研究では使用された時期と対象文献に基づき旧呼称で使用している。

4. 研究結果

文献研究の結果、「ごくあたりまえの生活」、「生活のしづらさ」、「ふくらみ」、「いこいの家」、「家庭的雰囲気」、「支え合いのネットワーク」、「健康な部分」、「自己管理」、「仲間づ

くり」、「社会復帰」、「地域精神衛生活動」の11の重要概念が抽出された。

「ごくあたり前の生活」、「生活のしづらさ」、「いこいの家」、「仲間づくり」、「家庭的雰囲気」は、谷中が精神病院のソーシャルワーカーであった活動初期からその生成の萌芽が見られる。その後、やどかりの里の活動の中で「ふくらみ」、「健康な部分」、「支え合いのネットワーク」の概念が生成された。「自己管理」、「社会復帰」、「精神衛生活動」に関しては、活動初期と後期でその意味づけが異なっており、活動の中でパラダイム転換が起きたと考えられる。

これらの重要概念の多くは、当事者発信により生成・修正されたという特徴を持つ。特に「ふくらみ」、「いこいの家」は、当時谷中が関わった精神障害者の言葉を借りた概念である。「ごくあたりまえの生活」、「生活のしづらさ」、「家庭的雰囲気」、「社会復帰」、「自己管理」、「精神衛生活動」も、精神障害者と共に行なう活動の中で生成・修正されていった。「仲間づくり」、「支え合いのネットワーク」、「健康な部分」は、精神障害者同士や地域住民、現場の職員など、谷中が他の支援者より影響を受けた概念である。

当時の情勢としては、長らく精神障害者が病者とみなされ、医療の対象としてのみ捉えられてきた精神保健福祉の動向があった。また、学生運動や反精神医学運動など、デモンストレーションが流行していたという社会背景があった。

5. 考察および結論

本研究の結果より、谷中のソーシャルワーカーとしての価値形成に影響を与えた要素は以下4点であると考察した。第1の要素は、「当事者や他の支援者から学ぶ姿勢」という谷中個人の特性である。第2の要素は、「当事者や支援者の声が発信されやすい環境」という谷中の身近な環境の要素である。第3の要素は、「実践を示す必要性」という当時の精神保健福祉の状況である。第4の要素は、「思想の行動化が流行した時代」という社会状況である。

したがって、本研究の結論としては、谷中のソーシャルワーカーの価値は「当事者や他の支援者から学ぶ姿勢」と「当事者や支援者の声が発信されやすい環境」、「実践を示す必要性」、「思想の行動化が流行した時代」の交互作用により形成されたと置くことができる。

7. 今後の課題

本研究は、谷中輝雄が執筆・編集・監修した文献を対象を限定して行った。今後の課題として、谷中輝雄に関わった人物にも対象を広げ、谷中輝雄理論が具体的にどのような相互作用のもとに生成されたのかを明らかにする必要がある。また、年代も1996年までに限定したため、『生活支援』の出版以降に谷中輝雄理論が人々にどのような影響を与えていったのかを明らかにする必要もある。